

令和８年度第１回兵庫県建設業育成魅力アップ協議会 議事録

日時：令和８年７月１３日（月）１０：００～１２：００

場所：神戸市教育会館 ５０１号室

【令和７年度 事業実施報告について（事務局）】

１ 事業総括

- （１） 令和７年度においては「建設業の魅力発信の拡充・強化」など３事業２４の事業メニューに取り組んだ。
- （２） 建設業魅力説明会や資格取得支援講習会等は、概ね予定通り実施することができた。

２ 主な事業の結果について

- （１） 動画配信サービス（Ｔｖｅｒ）を活用して、建設業に携わる人の活躍ぶりを表現した広告を、令和７年７月２９日から同年９月３０日までの６４日間にわたり配信した。同期間の総再生数は１１５万回で、幅広い年代の方に建設業について知っていただく機会となり、建設業に対する認知及びイメージの向上に寄与したと思われる。
- （２） 工業高校生等に重点を置いた高校新卒者の入職促進について、現役の技術者・技能者が工業高校、定時制高校、農業土木系学科高校に出向いて、建設業の魅力を伝える説明会（魅力説明会）を６校計９回開催した。参加者アンケートによると、説明会後に「建設業のイメージがよい」と回答した生徒の割合が、説明会前後で３６．５％から２倍超の８０．２％になるなど、建設業のイメージアップに大きな成果があった。
- （３） 建設技能者の確保・育成について、若年未就業者を期間雇用した建設業者に対する補助事業では、４社から申請を受け付け、４名が採用された。うち１名については事業終了後も正規職員として継続雇用となっている。また、三田建設技能研修センターが実施する合同研修では、新入社員を対象とした「建設業入職者長期研修」及び入職１～３年目を対象とした「若手技術者実務研修」の２事業に延べ６５名が受講し、技術者の確保・育成に努めた。

【令和８年度 事業実施計画について（事務局）】

１ 兵庫県立大学における土木系人材の育成について

県内大学で土木工学を学ぶところが少ないという現状を踏まえ、兵庫県立大学で土木系人材の育成が行われるよう、働きかけを実施していく。

２ 工業高校、定時制高校等への説明会（魅力説明会）開催概要について

令和８年度は７校計１１回開催予定である。

３ 定時制高校生等入職促進事業（補助金）について

令和８年７月１３日時点においては１社が同補助金事業に申請しているほか、その他複数の問い合わせを受けている状況である。

4 工業高校生資格取得支援講習会事業について

工業高校生を対象に2級土木施工管理技士や2級建築施工管理技士の学科試験合格に向けた講習会を、令和8年度は5校計7回実施予定である。

5 工業高校生保護者を対象とした現場見学会について

若年者の進路決定においては、保護者への広報が重要であることから、本見学会を実施したいと考えている。建設業においては週休二日制の確保が進んでいるが、週末の実施でなければ参加ができない保護者も多いことからマッチングが難しいが、開催に向けて調整している。

6 小中学生向け等建設業体験会事業実施状況について

一般社団法人兵庫県建設業協会による「建設ふれあいまつり」を、今年度は令和8年8月1日に開催予定である。

【各委員からの取組紹介（主な内容）】

一般社団法人兵庫県建設業協会

1 建設業イメージアップ動画「6人の施工管理技士たち」について

兵庫県建設業協会では、これまでも若年層や女性の建設業への就活応援動画等を製作してきたが、今回は高校の授業で使うことができるように、施工管理がどのような仕事であるかを理解できる内容の動画を作成した。本動画は兵庫県建設業協会HPやYouTubeで配信している。（説明後、本動画を5分程度に編集した映像を視聴した）

2 令和7年度 地元建設業協力出前講座アンケート調査結果について

（1）生徒に対するアンケート結果について

令和7年度に実施した5校の生徒に対してアンケートを実施したところ、就職先を選ぶに当たって最も重視する項目について「職場の雰囲気・人間関係」を重視すると回答した生徒が一番多い結果であった。

（2）保護者に対するアンケート結果について

保護者を対象に実施したアンケート結果からは、建設業においては体力が必要であり、やりがいはあるが、きつい・汚い・危険という、いわゆる3Kのイメージがまだ残っていることがうかがえた。自身の子供の就職先の選択に当たり最も重視する内容についての回答結果は、生徒を対象にしたアンケート結果と同じく「職場の雰囲気・人間関係」が一番多い結果であった。

3 公式Instagramの開設について

兵庫県建設業協会の公式Instagramを開設した。

三田建設技能研修センター

1 一日体験セミナーについて

令和7年度は、豊岡総合高校の生徒を対象に型枠組立作業及び建設機械運転体験セミ

ナーを実施した。また、他府県の建設業協会からの依頼により、県外の高校生を対象とした体験セミナーも複数回実施した。

2 建設労働者育成支援事業

現在仕事に就いていない方を対象とした、技能講習など資格取得のための研修を年2回実施した。

土木部技術企画課

ひょうご建設業環境整備支援事業について

令和8年度から行っており、ICT機器等の導入経費やスマートシフト支援を行う事業で、1回目は令和8年4月に実施し、2回目は9月に実施予定である。ICT機器等導入支援として、測量機器、建設機械、ICT機器の購入の支援を行うほか、スマートシフト支援として、執務室改修、トイレ整備・美装化、更衣室・シャワー室整備及び改修を対象とした補助金事業を行っている。同事業は好評であり、令和8年4月1日から14日までの申請期間において先着順で受け付けたが、4月1日の時点で予算の上限に達し、1日で締め切る結果となった。第2回目の受付については9月1日から開始される。

まちづくり部営繕課

県立病院建築現場（見学会＋相談会）について

まちづくり部では令和7年度から、大学生、高等専門学校、高校、専門学校などに在学中の学生及び保護者を対象とした現場見学会を実施（昨年度は西宮総合医療センターにおいて同見学会を実施）している。令和8年度については兵庫県立がんセンター（明石市）で実施予定であり、その際は、実際に工事に携わる作業員の方から、建設業の仕事について相談会の時間を設ける予定である。

一般社団法人建設業振興基金

産学官民連携教育プロジェクト「未来補完計画～子供たちの未来を共に創る～」について

小学校、中学校、高校をターゲットに、学校の授業の中で建設業の魅力を伝えるためのアニメ映画を製作する。30分の作品2本を予定しており、制作には映画製作に著名な方々に協力をいただく。内容としては、2050年の世界を題材に、インフラの老朽化の問題等について、映画の中でその現実に触れてもらい、学校の授業の中で、将来の暮らしにとって何が大事かということを通じて学校の先生や親御さんにも考えてもらい、最終的には建設業の役割について考えていただくことを目的にしている。出来上がりは2027年度の完成を予定しているので、完成した際は是非ご覧いただきたい。

兵庫労働局

1 ハローワークの取組について

建設業に関する人材確保については、ハローワークも重点分野として力を入れている。兵庫県内の8か所のハローワークに「人材支援総合コーナー」を設置し、建設業をはじめとして、医療・介護・保育・警備・運輸といった人手不足の分野に対して重点的な支援を行っている。求職者には職場紹介や職業相談だけではなく、担当者制による継続的な就職支援や業界ガイダンスや会社説明会、企業見学等を実施している。ハローワークでは特に「求人の見せ方」に力を入れている。求人票だけでは伝わりにくいことも多いため、例えば建設業の場合、社会インフラを支える重要な仕事であるということを求人票の中で伝えていかなければならない。例えば、ICTの施工や週休二日制の導入、人材育成の導入等、昔と比較して働き方が変わっている点を反映させ、いかに建設業が魅力的であるかを伝えることに、ハローワークとしては力を入れている。また、求職者が企業を選ぶ際に、仕事の内容以外も、企業はどのような点を重視しているのか、どのように（私を）育ててくれるのか、安心して長く働ける環境であるのか等を気にする場面が多くみられる。ハローワークではこのような求人票に載らない情報も収集することで「求人票の見せ方プラス、いかにハローワークの職員が窓口となり魅力を発信できるか」という点に力を入れている。

2 ユースエール認定制度について

若者の採用と育成を積極的に行っており、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業について、厚生労働大臣が「ユースエール認定企業」として認定する制度である。認定企業はハローワークにおいて積極的にPRし、自社の商品、広告などに認定マークの使用が可能となる。建設業界でも認定が進んでおり、兵庫県内では合計67社がユースエール認定をされているが、そのうち20社が建設業を営む企業である。建設業も働きやすいという点について、ユースエール認定を通じて「見える化」して発信する取組をハローワークでは行っている。

一般社団法人兵庫県電業協会

電業協会の新しい取組として、ポリテクセンター（兵庫・加古川）において、この夏から卒業生のための説明会の枠を確保している。現時点で加古川では会員から募集した求人が現在8社ほど来ているため、2日に分けた形で生徒に対して説明を行う予定である。

一般社団法人兵庫県空調衛生工業協会

毎年実施している「兵庫県ものづくり大学校」における取組について、今年は6月9日に出張講座を開催し、協会のPRとフロン回収について、会員である企業により生徒に説明を行った。6月23日には、こちらも毎年行っている「配管コンテスト」を実施した。参加した学生15名全員が課題を完成するという結果であった。7月6日には会社説明会を実施するなど、就職に結びつける取組に力を入れている。

【取組照会后・意見交換等（主なもの）】

1 質問：企業がユースエール認定制度を受けることのメリットはあるか

若年者を雇用する際に、ユースエール認定を受けていると、ハローワークとしても積極的にホームページで紹介しているほか、面接を行う企業の側からも、ユースエールを受けていることを前面にアピールできる。ユースエールを受けている企業は、認定までの過程においてハローワークがその企業のことに詳しくなるので、ハローワークとしても（求職者に）紹介がしやすくなる。つまりは企業の魅力が求職者に伝わりやすくなる。（兵庫労働局回答）

2 意見：中学生及び中学校教諭に対する説明・PR機会の拡大（兵庫県工業高等学校長会）

中学生の中で工業高校を選択する生徒が減少しており、定員割れをしている学校が多い現状がある。工業高校の生徒等への聞き取り調査などから、中学校の段階における進路指導の中で、普通科高校に行けない生徒に対して工業高校を勧める、輪切り型の進路指導がなされている傾向が感じられる。なので、工業高校に入学した生徒であっても、そもそも土木に興味があるから入ったのではなく、進路指導の教員から定員割れだからと勧められて入学したという人もみられる。もちろんこうした生徒に対しても教員が土木や建設業の面白さを説くようにしているが、入口の段階で土木や建設に興味のない生徒が多いことが実感としてある。中学校の先生の多くは、教育学部や教育大学を出ている方が多くおられ、工業のことや建設業についてあまり詳しくないことから、進路指導の際は普通科高校から大学入学までを意識したものになりやすく、結果として工業高校については後回しになるのではないかと感じる。そこで私たち工業高校の教員が中学校に赴き、中学校の教員の方に説明を行っているが、今後は「中学生や中学校の先生方に対しての説明やPR」の機会が増えれば、工業高校を志望する生徒が増加し、入学した生徒を工業高校の教員が育て上げ、社会に送り出すという好循環が生まれると思う。

3 工業高校教員採用試験の定員割れについて（兵庫県教育委員会）

近年工業高校教員採用試験の定員割れが全国的に発生しているが、入ってこられる先生方も、建築で受けていても「建築・土木」で採用し、土木科に配属するケースがあり、逆に土木で受けていても建築にというケースもある。今年はまちづくり部の行う建設現場見学に工業高校の教員も参加できることになったが、何かこのような取組がある際には、工業高校の教員もぜひ参加し、生徒と一緒に勉強させてもらう機会をいただきたい。